



今月の題字
須永潤・恵子さん

(みどり市大間々町)

潤さんは清寧館道場の子ども達の剣道の先生。先々代の善十郎さんからひ孫ちゃんまで親子4代の長い家族付合い。奥様の恵子さんのイラストも最高！

虹の架橋

検索

で、インターネットからでもご覧いただけます。

星野富弘詩画ハンカチ

プレゼントにも最適な人気作品を追加
足利屋ではこのたび、富弘美術館でも販売している詩画ハンカチの種類を充実し、新たに人気作品を追加して販売を開始します。
今回追加した作品は、ガクアジサイ(結婚指輪)、小さな実、ポピー、きく、ヒヤシンス、笑うシーサーの6点。価格は770円(税込) 親しい方へのプレゼント

や、お部屋の壁や卓上のインテリアとしても最適なハンカチ用額縁もご用意しました。(20cm角・税込990円) 詩画ハンカチには、富弘美術館学芸員による作品解説もついており、富弘作品の魅力をいっそう深く理解することができます。ご注文、お問合せは足利屋、アスクへ。(0277-73-1212)

富弘美術館を囲む会員募集中
富弘美術館では只今「富弘美術館を囲む会」の会員を募集中です。年会費は千円。会員特典として美術館の最新情報満載の機関誌が届き、令和8年3月まで有効の会員カードを提示すれば何度でも無料で美術館に入館でき、群馬県支部の活動にもご参加いただけます。入会申し込みは足利屋でも承っております。



『人の喜びを自分の喜びに』

小耳にはさんだ いい話 (文責・菊) 《359》

32年前からネパールの移住し、単身で貧しい村々の支援活動が続いているOKバジこと垣見一雅さんと一年ぶりに再会しました。

垣見さんは、村人たちが造ってくれた小屋に住み、国の支援が行き届かない山村の人々への支援を続けています。昨年開かれたOKバジネパール支援30周年感謝式典には6000人も村人が集ったそうです。

垣見さんは、ネパールが雨期で支援活動ができない六七月に毎年日本に帰国し、全国の支援者に報告会や講演会を開いています。桐生は全国に先駆けて垣見さん支援の団体が誕生した場所であり、全国行脚の報告会も毎年桐生から始まります。

六月八日に桐生で開催された「OKバジを支援する会」の総会では約50名の会員や協賛者の人たちから1年間に集まったカンパ143万7710円が垣見さんに託されました。1993年からの累計は約6847万

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館



今月の絵《359》

シャガール『花と花嫁』

『虹の架橋』は、平成7年9月に第1号を発行し、8月で丸30年を迎えます。創刊号では「足利屋には、世界一小さなトイレ美術館があります。定員1名の小さなトイレですがお客様に気持ちよく使ってもらうために毎朝ピカピカに磨いています」と書きました。そして、私が好きだったシャガールの『道化師』の絵を飾りました。あれから30年、トイレ美術館には友人や知人の絵や書や写真などを飾らせていただき、ご縁を深めさせていただいています。今月紹介するシャガールの作品は、足利屋が所蔵する作品の中で一番大きな作品です。

円にもなっています。

「虹の架橋」の読者にも垣見さんの活動に共感している方がいて、今年もお預かりしたお便りや支援金を垣見さんに手渡ししました。人を喜ばせることが好きな垣見さんは丁寧な字でお礼のハガキを書いてくれて支援者を喜ばせてくれます。人の喜びを自分の喜びにする垣見さんの生き方を見習いたいと思います。



あり、皆で「ハッピーバースデー垣見さん」を歌って祝福しました。会場全体に響き渡る大きな歌声が垣見一雅さんと参加者の絆の深さを物語っていました。

令和7年6月18日(水) 先週、口腔外科のI先生から「病名は外歯瘻と言います。18日に下の犬歯などを抜歯して、顎に溜まった膿を除去する手術になります。全身麻酔で約1時間程度。入院期間は約1週間前後になると思います」と説明を受けて今日を迎えた。生まれて初めて手術室に入り、酸素マスクをつけた。麻酔が入るとすぐに意識がなくなると言われたが、本当かどうか確かめたくて、般若心経と心の中で唱え始めた。唱え始めてすぐに「松崎さん」と呼ばれ、いよいよ始まるのかと思ったら「終わりました」と言われた。1時間以上意識がなかったようだった。手術室を出て麻酔が切れかけた時、心配そうな和子の顔が見えた。その時、「相変わらずずいぶんだね」と言ったという。そんなことを言った覚えは全くないが、麻酔が覚めた後に、手術室担当の看護婦さんから「それいよいよ奥さんで手術だね」と冷やかされてしまった。全身麻酔のせいだと思い自白せられた。

梅雨晴れや裾野は長し赤城山 梅雨の晴れ間の朝の散歩は快適です。曜日によって歩くコースを変えています。がどのコースからでも必ず見えるのが赤城山です。ボケ防止と孫との上毛かるたのリベンジマッチに備えて歩きながらアイウエオ順に暗唱しています。「浅間のいたづら鬼の押し出し」「伊香保温泉日本の名湯」「碓氷峠の開所跡」「縁起だるまの少林山」「太田金山子育て呑龍」：群馬県民にとって上毛かるたは郷土愛の証。赤城山の裾野の大きさは富士山に次いで日本で2番目だそうです。「裾野は長し赤城山」を見ながらの朝の散歩は上州人の特権です。